

株主のみなさまへ

第21期中間報告書

2018年4月1日～2018年9月30日

株式会社トランスジェニック

証券コード 2342

ご挨拶



代表取締役社長 福永 健司

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、第21期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。
当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことをめざしております。

この経営理念を実現するために、当社グループでは基礎・探索研究から、非臨床、臨床及び診断・解析まで網羅した創薬支援サービス事業を展開するとともに、グループの収益基盤強化を目的として事業承継・再生事業分野を対象とした投資・コンサルティング事業を営んでおります。

事業の状況としましては、後ほどご説明いたしますとおり、前期実施した事業構造改革の成果が顕著に出てきており、下期も確実に推進することで通期の大幅増収・増益を達成したいと考えております。

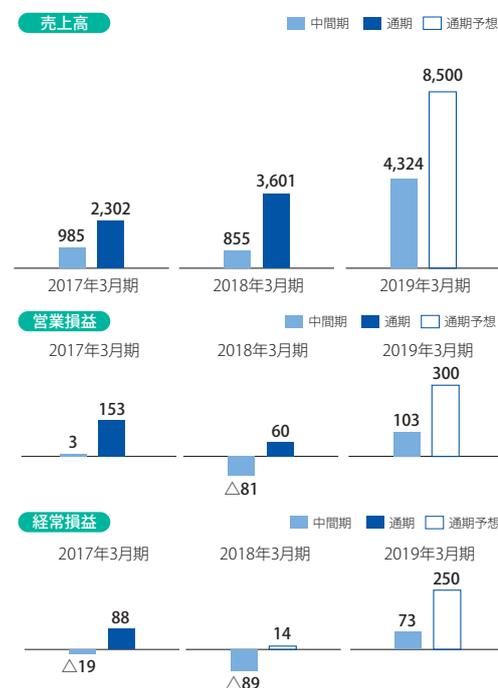
株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2018年12月

代表取締役社長 福永 健司

業績概要

◆ 第21期第2四半期連結累計期間(中間期)の業績 単位:百万円



当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高4,324百万円(前年同期比405.7%増)、営業利益103百万円(前年同期は81百万円の営業損失)の黒字となりました。また、経常利益についても73百万円(前年同期は89百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益も28百万円(前年同期は73百万円の四半期純損失)となり、前年同期比で大幅改善となりました。

この要因は、売上高についてはEコマース事業売上高2,770百万円が大きく寄与するとともに、(株)安評センターの売上高がCRO事業に加わり993百万円(前年同期比98.1%増)となったことによるものです。利益については(株)安評センターの営業利益がCRO事業の営業利益171百万円(前年同期比2,062.5%増)に大きく貢献したこと、Eコマース事業の営業利益をはじめとする安定的なTGBS事業の営業利益35百万円がグループ利益を底上げしたことによるものであります。

なお、診断解析事業については売上高367百万円(前年同期比3.6%増)、営業損失6百万円(前年同期は0百万円の営業損失)となっておりますが、これは補助金を原資とした、肺がん遺伝子パネル検査の事業化に向けた研究開発を先行して実施したことによるものであり、事業そのものは堅調に推移しております。

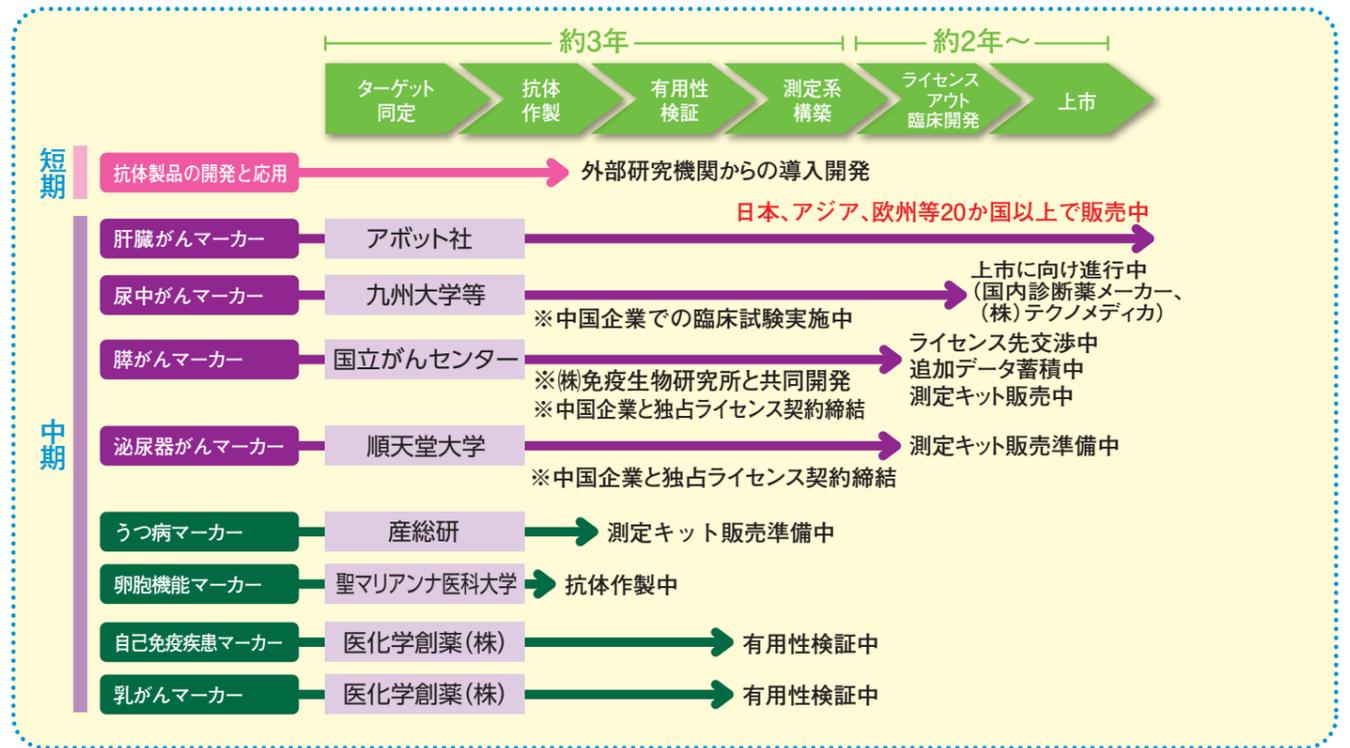
通期業績見通しについては、TGBS事業は下期も引き続き安定的に利益蓄積に貢献することが期待できるほか、CRO事業及び診断解析事業は下期偏重型事業であり、通期業績の大幅増収・増益に向けて大きく貢献することを期待しております。

◆研究開発状況

■モデルマウスの導入・開発状況



■開発パイプライン状況：抗体・診断薬・治療薬



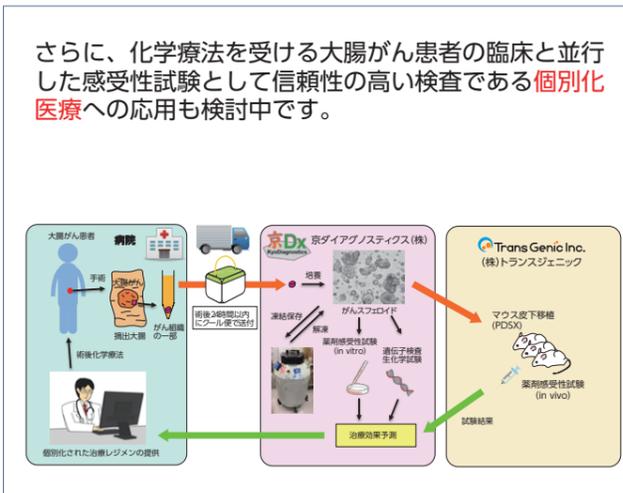
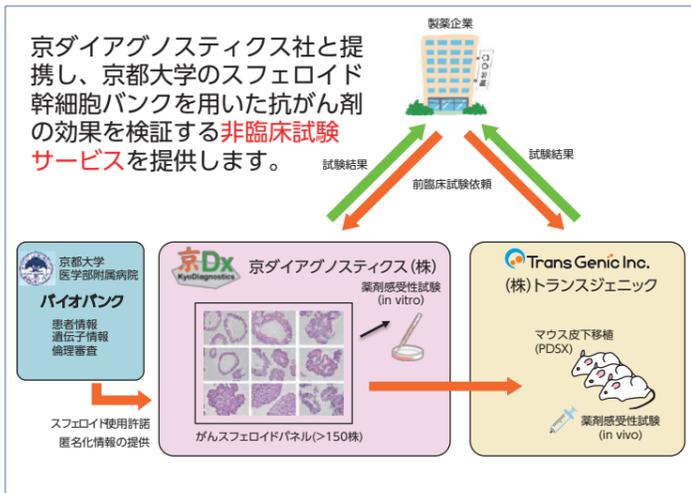
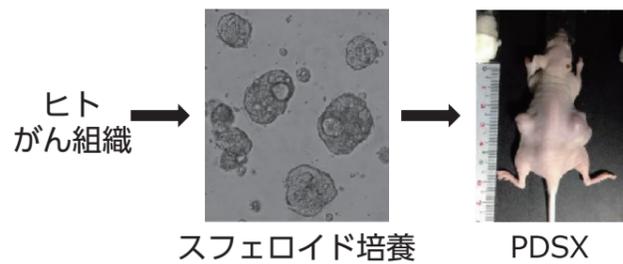
◆事業トピックス

京ダイアグノスティクス社との業務提携によるPDSXを用いた受託事業

抗がん剤開発、がん治療をめざして、ヒトがん細胞由来PDSX (Patient-Derived Spheroid Xenograft) 作製技術を用い、創業支援事業、診断事業を展開します。

京都大学医学研究科武藤誠教授らは、患者由来大腸がん細胞を免疫不全マウスに移植するPDX法を大きく改良したPDSX法^(注1)を開発し、がんの薬剤感受性試験に使用できることを示しました。

(注1) PDSX法：PDX法に比べ、低コスト、短期間(約2カ月間)かつ再現性の高いマウス作製が可能な技術です。

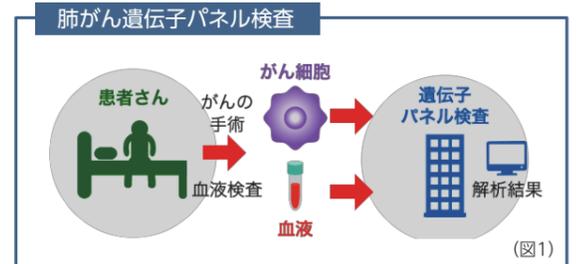


肺癌遺伝子パネル検査

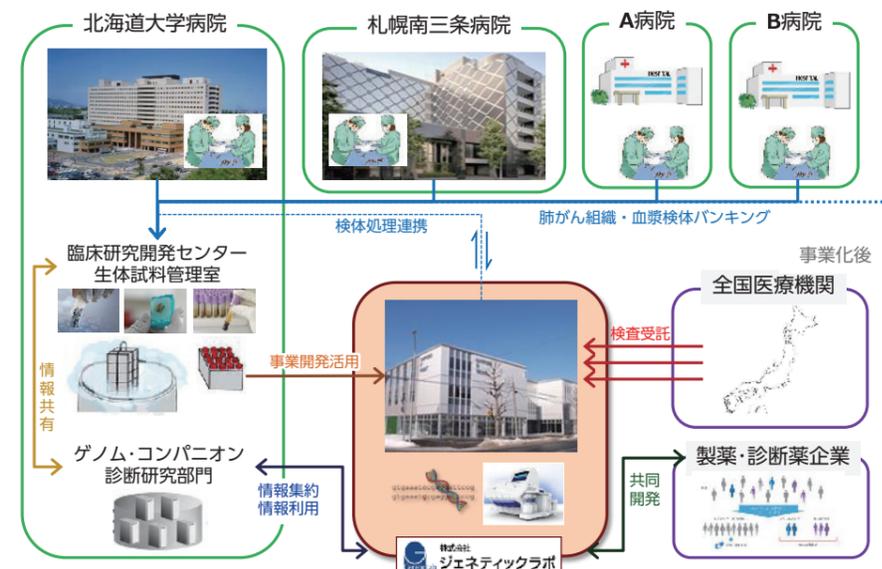
国内初の次世代シーケンサー^(注2)技術を用いたコンパニオン診断システムである「肺癌遺伝子パネル検査」と「リキッドバイオプシー(血液生検)検査」を組み合わせ、切除可能な早期肺癌患者さんを対象に、パッケージとして提案します^(図1)。

新規ゲノムプロファイリング検査スキーム(早い段階での遺伝子異常の検出と治療への応用)を北海道大学と共に構築・提供します。

(注2) 次世代シーケンサー(Next Generation Sequencer:NGS):次世代シーケンサーとは、ランダムに切断された数千万~数億のDNA断片の塩基配列を高速に読み取り、ゲノム情報を解読する装置です。



◆北海道内医療機関の連携を活用した新規肺癌遺伝子パネル検査の実施体制



会社概要 2018年9月30日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	3,363百万円
従業員数	27名(単体) 221名(連結)
事業所	
本社	福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
神戸研究所	兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス	東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員	2018年9月30日現在
代表取締役社長	福永 健司
取締役	山村 研一
取締役	北島 俊一
取締役	船橋 泰
取締役	渡部 一夫
取締役	清藤 勉
常勤監査役	鳥巢 宣明
監査役	佐藤 貴夫
監査役	光安 直樹

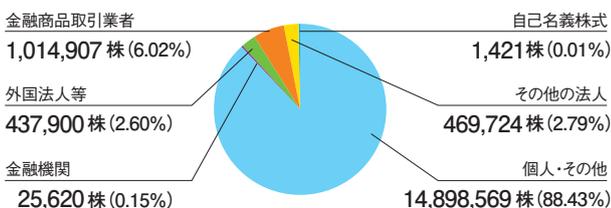
株式の状況 2018年9月30日現在

発行可能株式総数	43,630,100株
発行済株式の総数	16,848,141株
株主数	13,112名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社SB I証券	342,401	2.03
奈良岡 武義	217,200	1.29
松井証券株式会社	178,700	1.06
株式会社ムトウ	160,200	0.95
大和証券株式会社	145,100	0.86
福永 健司	120,800	0.72
原田 育生	120,100	0.71
BNY FOR GCM RE GASBU	116,700	0.69
カブドットコム証券株式会社	100,500	0.60
上永 智臣	99,500	0.59

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード	2342
上場市場	東京証券取引所 マザーズ
上場年月日	2002年12月10日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

郵送先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。
ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/>

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp

